

平成29年度第3回CTK放送番組審議会 議事録

平成30年3月26日

15:00～16:45

ケーブルテレビ可児 3階会議室

【出席委員】

委員長 衛 紀生（可児市文化創造センター館長兼劇場総監督）
副委員長 渡邊 雅美（可児市NPO協会）
委員 青木 友誉（(株)アオキ 代表取締役社長）
伊藤 壽（可児市議会議員）
浦野 恭子（可児市子育てピアサポーター）
小木曾昌文（御嵩町 企画課課長）
中島めぐみ（可児市 市長公室広報課主査）

（敬称略、五十音順）

【CTK】

谷口 公一（代表取締役社長）
西川 勇司（常務取締役）
山下伸一郎（取締役 メディアサービス部部長）
尾石美智代（メディアサービス部 担当部長）
長尾 武彦（メディアサービス部メディアグループ長）
丹羽ひらり（メディアサービス部 メディアグループ）（記録係）

1. 開 会

事務局：平成29年度第3回放送番組審議会を始めさせていただきます。

2. 挨拶

谷口社長：今年度最後の番組審議会です、よろしくお願いします。

29年度を振り返ると新番組として「体験！ぐっジョブ」を始めたり、スポーツ番組や生中継番組を充実させられたかなと思います。また、生中継ができる簡易中継機器を購入し、鮮度と臨場感を意識した番組作りをしてきました。

11chの生活情報カメラは新しく4台追加をしました。

今後は、合計11台のカメラで生活に役立つ情報を提供できればと思います。

谷口社長：来年度は、ドローンを使った空撮番組をスタートさせるほか、スポーツを頑張る高校生を紹介する番組など、若者を意識した番組も始まります。これまで以上に、生中継やスポーツ番組に力を入れていこうと思っております。

3. 議 事

(1) 自主放送番組および番組編成について

① 視聴番組についてのご意見・ご感想

・CTKフラッシュニュース生中継

「可児市文化創造センターでイルミネーション点灯式」(平成29年12月21日)

・スポーツ生中継(平成30年2月11日)

「第31回東海高等学校バスケットボール新人大会決勝戦」

(平成30年2月11日)

・新番組「そらさんぽ」(パイロット版)

第1回放送予定 4月28日(土)～5月4日(金)

【CTKフラッシュニュース生中継】

「可児市文化創造センターでイルミネーション点灯式」

委員長：では、はじめます。

まずは、CTKフラッシュニュース生中継の説明からお願いします。

事務局：毎年、可児市文化創造センターで行われている、イルミネーション点灯式を生中継しました。今年度新しく購入をした中継機器を使った、フラッシュニュースとしては初めての生中継ということもあり、上手くいかない部分もありましたが無事に放送はできました。この放送以降、月1度のペースで生中継や中継風録画で番組を放送しています。

委員：番組全体の構成が気になる。

最初にイルミネーションが出てきて、間にインタビュー、その後にもまたイルミネーションが映るので、今、自分が何を見ているのかわかりづらい。

委員長：番組の尺のわりには話している内容、情報が少ない。

また、初めての生中継ということで全体的に動きがもたっている。
イルミネーションのテーマが昔話などのシリーズになっている話や、なぜ、点灯式を始めたのかななどの情報もあると良かった。リポーターのしゃべりが台本をそのまま読んでいるような感じで、イルミネーションがついた時の反応が冷静だったのが残念。

委員：イルミネーションは立体的に作られているのに、映像だと平面に見える。

中継なのでもっと歩いて、色んなカメラワークがあっても良いと思う。

事務局：カメラ一台のみの放送でした。

今回の中継場所は広いため、一台で撮影できる範囲は限られて一台でどこまで撮影が出来るかの挑戦でもありました。

委員：リハーサルは何回しましたか。

事務局：全体通してのリハーサルは、1回です。

インタビューをする人との細かい打ち合わせは5回あるが、なかなか出演者全員でのリハーサルができず、初めての生中継として、不安はゼロではありませんでした。その不安が、本番のしゃべりにも表れてしまったと思います。

事務局：今回、リポーターを務めたのは入社2年目です。これまで、生中継の経験は防災訓練や水防訓練レポートで、点灯式のようなレポートは初めてでした。この後も、何度か中継をしていてリポーターとスタッフも回数を重ね少しずつ上達をしてきています。来年度も生中継は継続して行っています。

委員長：点灯式には、誕生日の記念など色々な思いがあって参加する人達がいる。

台本は作らなくても良いので、その場の臨場感を大事にした方が良い。
例えば、子どもが点灯式に参加すると点灯したイルミネーションを見て走り出す、それを追いかけてカメラマンも走り出す、という臨場感が生中継の良さだと思います。そういうシーンがあっても良かったと思います。

委員：事前取材が足りなかったということはないのでしょうか。

委員長：足りないところもあるでしょうね。イルミネーションを始めた意図など、もう少し入れ込める情報もあったのではないかと思います。

委員：カメラの揺れは手持ちの揺れですか、気になりました。

事務局：移動の時は手持ちで揺れる。三脚も使っている。

委員：手持ちの揺れはどうにもならないのか。

事務局：芝生の斜面でよりぶれてしまうのかなと思います。

委員長：ブレを利用した撮影もありだと思う。

【スポーツ生中継】

「第31回東海高等学校バスケットボール新人大会決勝戦」

事務局：CNCiという、東海地区のケーブルテレビ局が共同で作った組織があり、今年度は高校生をターゲットにして、スポーツに絞った生中継番組を放送しました。愛知県で行われた野球の招待試合やゴルフの生中継などです。委員のみなさんにはその中のひとつ、バスケットボールの新人大会の生中継を見ていただきました。

委員：若い世代の人、高校生に見ていただきたいという目的であれば、新人戦ではなく、もっと高いレベルの試合が見たいと思うのではないのでしょうか。

委員：試合を見ながら高校の雰囲気分かり、高校選びの参考になると思い好感が持てました。スポーツで高校進学を考えている人にとって、ネット上の情報ではなく、どんな監督でどんなチームなのかを知るチャンスになると思います。違うスポーツも中継をしてもらいたいと思いました。

事務局：高校選びの参考になるというご意見が出ましたので、1つ番組の紹介をさせていただきます。4月から「ハイスポ」という新番組がスタートします。岐阜県、愛知県のスポーツを頑張る高校生を紹介する、週間スポーツニュースのような番組です。岐阜県の高校生も紹介される可能性があります。

事務局：高校生のスポーツ大会の結果や、注目選手紹介もありますので、そちらもご覧ください。

委員：高校生で部活をしている子は、テレビを見る暇はないと思います。また、運動をやっていない子がスポーツ番組を見るときも考えられない。今の高校生は YouTube で勉強もする子もいます。高校生をターゲットにするなら、視点を変えた方が良いのではないのでしょうか。

委員長：スポーツ中継は物語性が必要になってくる。高校野球の番組でも、町の紹介や選手紹介もして物語性を作り出している。物語性を付ければ、高校生の子どもがいなくても番組を見てくれるのではないか。中継自体は、スポーツに関心のない人は退屈に感じてしまう。選手の性格を踏まえた解説なども入ってくると良いのではないか。

委員：他に番組で高校を紹介するような番組はありますか。

事務局：レギュラー番組としては無いですが、CTK フラッシュニュースで取り上げています。

委員：学区制が無くなったことで、学校選びに関しては親として知らないといけないこと、知りたいことが増えています。自宅から通える学校の情報は知りたいと思います。

委員長：今、地元の高校に通っている子や、その他の高校に通っている子が、就職するときに地元に戻って来るか、来ないかは今後の地域にとって重要なことだと思う。地元どんな学校があるのか、どんな企業がありどんな職場なのか、そういったことも紹介して、地元の子どもたちに希望を持たせてあげるのもケーブルテレビに求められていることではないのでしょうか。

委員：生中継のテロップが分かりづらく、男子の試合か女子の試合か分からなかった。

事務局：テロップに間違いはありませんでしたが、生中継した映像の場面の移り変わりやテロップのタイミングなどの関係で分かりづらかった可能性はあります。

委員長：高校生外国人選手もいたのではないか、そういった子の紹介もしてほしかった。そうすることで、同じ境遇の選手や子どもに希望を持たせることができると思う。

【新番組】「そらさんぽ」(パイロット版)

委員長：新番組について説明をお願いします。

事務局：4月から始まるドローンを使った新番組です。多治見市・土岐市・瑞浪市を放送エリアとするケーブルテレビ局、おりベネットワークと共同で制作をします。四季の景色や街並みを上空から撮影し、ゆったりと見られる番組を制作しようと思っています。偶数月はケーブルテレビ可児、奇数月はおりベネットワークが担当し、毎月1本15分の番組で放送をしていきます。

事務局：番組の前半では可児市と御嵩町、多治見市などの季節の景色や街並みを、後半は施設を紹介できればと思っています。

4月は桜のスポットとして、可児市は蘭丸ふるりの森、御嵩町はみたけの森の桜、後半部分では、可児市文化創造センターアアラを紹介しようと思っています。審議委員の青木さんに協力をしていただき、ドローンの撮影をして頂きます。今回見ていただくパイロット版は、御嵩町の願興寺を撮影をしたものです。

委員：たくさんあるデータをお渡しして、編集をしてもらいました。

編集者によって印象は変わってくると思いますが、ご意見ください。

委員：撮影の許可はどう取っているのですか。

委員：市役所や、警察署などに申請をして許可を得ています。

操縦に関しては、民間の資格を取得しました。

委員長：空から見るのは面白い。最初はクレーンを使った映像かと思った。

景色だけでなく、少し人が出てくると良かった。

例えば、お寺についての説明やお寺の話をしている人から、カメラが上に離れていくと、お寺全体が映るようにすると迫力がでるのではないかと。

または、リポーターがいるのも面白いのではないかと思う。まちの人で良いと思うので出演してもらったらどうか。

委員：ドローンの視点は、私たちの視点とは違う視点だから面白い。

申請の許可や、撮影の技術なども撮影の大変さも分かりました。

大変なことを分かった上で、止まっているモノだけでなく、動くものが入っているとまたイメージが違って面白い映像になると思います。

委員長：知っている町でやるから強みになる。知っている町の景色を普段と違う視点で見ること、自分の住む町に興味を持てると思います。

委員：撮影したものに対して思いがあるから、映像として良くなると思う。
技術がすごいから放送するというより、どんな思いがあり、何を伝えたいのかを
しっかりもって放送しないと、軽い番組になってしまうと思う。

委員：飛びながら撮影して、映像はブレることなく撮れるのですか？

委員：どんなに傾いても、機体がブレないようにする装置がついているので、映像もブレなく撮影することができます。

委員：名鉄広見線活性化のために、名鉄電車の映像も撮影できないでしょうか。
景色の中に赤い電車が走っている映像も見てみたいです。
可児市の施設だと、5月にオープンする子育て健康プラザもドローンの映像で
見てみたいと思いました。

事務局：動いているもののアップはなかなか難しいとは思いますが、映像の中に静止しているものだけでなく、動くものも映っていると面白くなると思いますね。

② その他11ch・12chの番組についてのご意見

委員長：何かご意見はありますか？

委員：ガイド誌はどこかで販売していますか？

事務局：専門チャンネルが見られる加入者に毎月配布しています。
ガイド誌に定価が書かれているのは、ガイド誌のような冊子には
料金を記載するきまりがあるためです。

平成30年度12chの番組編成について

事務局：来年度は6つの新番組が始まります。いくつか簡単に内容を紹介します。

まず、CNCi グループ共同で制作していく番組「ハイスポ」。スポーツを頑張る高校生を紹介する15分の番組です。

毎週水曜日に更新で、週末の大会結果の速報も放送しながら、ゆくゆくは生放送を目指している番組です。

続いて、「ダイガクモン」。東海3県の大学を紹介する番組です。大学進学を考えている親子がターゲットで、大学選びの参考にしてもらうのが狙いです。

また、可児市にはゴルフ場が多く、ゴルフをする人も多いので、そういった人たちをターゲットにしてゴルフの基礎を教えてくれる番組「安楽拓也の楽飛び塾」も放送します。

自社制作番組としては、「そらさんぽ」が放送開始。また、地元の企業にお邪魔して、仕事を体験しながらその仕事の大変さや楽しさを紹介していた「体験！ぐっジョブ」ですがこれから少し視点を変えて、会社の創業者や会社で働く人にスポットを当てる番組作りに変えていこうと考えています。

委員長：地元でどういう企業があって、どういう学校があるのか、実は知らない人が多い。

地元でない人達がすごいと思うことを地元の人は関心を持たないこともあるので、もう一度、地元にある学校や企業にスポットを当てて見てもらおうというのは良いことだと思う。

(2) CTK全体についてのご意見

委員長：是非ともご意見を伺いたいと思います。

委員：先ほどガイド誌の記載料金のことで質問しました。

販売はどういった方にしていますか。

事務局：多チャンネルの加入者には毎月配布をしています。料金に関しては、冊子を作るにあたって必ず記載が必要ですので記載をしています。もし、多チャンネルの契約ではない加入者から購入したいという要望があれば、販売もしています。

4. 報告事項

(1) 番組に対する苦情と対応

事務局：去年12月の放送番組審議会から本日までの間に、国に報告が必要な大きな放送事故はありませんでした。本日はご出席いただきありがとうございました。

以上